

(福祉) 北野小学校 3年

北野のすてきな人・人・人 やさしさを見つけよう広げよう」の実践を通して

9月～3月(30時間予定 継続中)

1 はじめに

北野小には、常時校門に立ち、学校の安全を守ってしてくれる「守る会」の方々や、登下校に付き添ってくださっている「見守り隊」の方々がいる。また、学区にはセラピー犬をボランティアで育成するなど、誰かのために頑張っている人々がたくさんいる。その方達からお話を伺い、自分たちにできることを考え活動をする中で、「課題を主体的に解決し、人との関わり合いを通して磨き合い高め合う力」を伸ばしたいと考えた。

2 実践の概要

①守る会の小森さんたちから話を聞こう

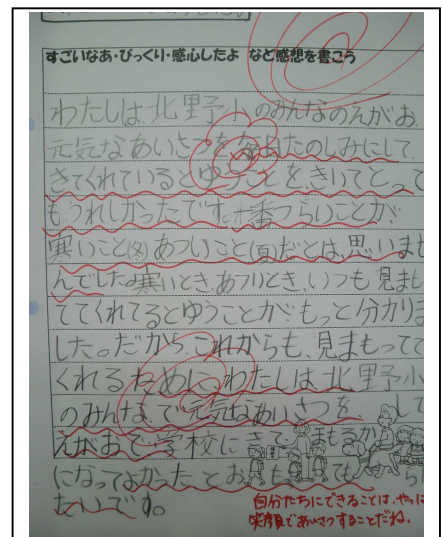
子供たちは、守る会の存在は知っていても、授業中に校門で立っていてくれる守る会の人々の活動はくわしくは知らない。どんな願いでやっていてくれるのか、どんな苦勞や喜びがあるのか、北野小の子達に望むことは何かなど話をしてもらい、子供たちは、守る会の人達への感謝の思いが増したようであった。

児童Aは、「みんなの元気なあいさつを毎日楽しみにして来ていてくれるということを知ってとてもうれしかった」と感想に書いている。そして暑いことや寒いことが一番つらいと話を聞き、苦勞を知った。自分ができることは、元気なあいさつを笑顔でして、守る会になってよかったと思ってもらいたいとまとめている。



【話を聞く子供たち】

お話を頂く際には、「子供たちにしてほしいこと」を話していただくようお願いし、自分たちにできることを考えられるようにした。



【児童Aの感想】

②自分たちにできることを考えよう

子供たちは、これまでの「福祉実践教室」や「セラピー犬のお話」「守る会の小森さんのお話」などから、自分がだれかのためにやってみたいことを考えた。

- ハッピー元気チーム(守る会の人に感謝する旗作り)
- きらきら小学生(1・2年生の子達に読み聞かせ)
- 犬レンジャー(1・2年生の子達にセラピー犬紹介)
- 3の1お知らせグループ(1・2年生の子達に守る会の活動を紹介する)
- 願いにこたえる部隊(守る会の人を紹介するポスター作り)
- 北野小学校を守るんず(一輪車とトイレのスリッパの整とん)

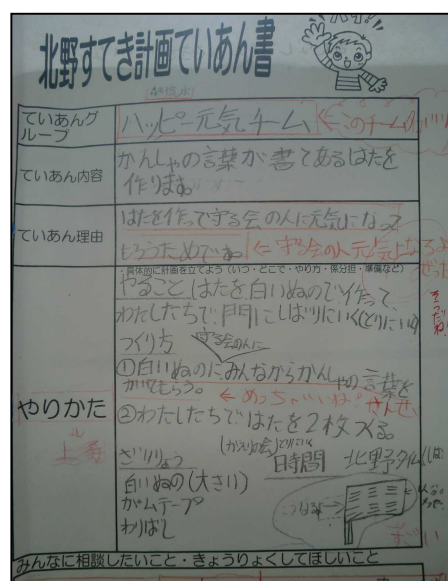
グループで計画をしたものを、クラスで話し合い、さらによりよい企画にするために話し合いを行った。

児童Aは、守る会の方のお話を聞き、守る会の方たちのためにできることをしたいと考え、ありがとうの寄せ書きが書かれた旗作りを計画した。

話し合いのなかで、「旗には、大きく『いつもありがとう』と入れるととってもよくなるよ」「雨のときは、どうするの？」など、様々な意見が出された。それらの意見をもとにさらに企画を練り直しよりよい企画にすることができた。



【クラスでの話し合いの様子】



【児童Aたちの企画提案書】

【児童Aの感想】私たちは、一人一人メッセージをかくことを提案したけれど、みんなから、イラストを入れると楽しいとか、大きくいつもありがとうと入れるとよいと聞き、確かにと思いました。イラストとかよいアイデアだなと思いました。計画をグループでもう一回考えたいです。

③教師の支援

自分たちで考え活動させるために、たくさんの人から話を聞く機会を持つようにした。そこで、「みんなができること」「みんなへの願い」を語っていただき、自分たちも何かやってみたいと考えるきっかけとした。さらに、考えた企画については、クラスで相談し合うことで、自分たちで考えて自分たちの手で行っているという、主体性を持てるように心がけた。

3 成果と課題

福祉実践教室での体験やセラピー犬の太田さん、守る会の方達などたくさんの人に話を伺うことで、子供たちの意識がどんどん変わっていく感じが感じられた。自分にはできないことはないか考える姿が見られるようになった。地域の人達に学ぶといった生の声の大切さを再認識した。

「自分たちにできること」を考えさせる段階で、子供たちの興味に従い、自分たちがやりたいことを自由に設定させたため、「誰のために行うか」といった対象がばらばらになり、そのためクラスで話し合いをするときに、アドバイスの内容が表面的な意見や質問になってしまうことがあった。「だれのため」にやるのかをクラス共通にすれば、さらに話し合いがより深く「相手のことを考えた」ものになったのではないかと感じた。